

第4章 計画段階配慮事項並びに調査、予測及び 評価の手法

第4章 計画段階配慮事項並びに調査、予測及び評価の手法

4.1 計画段階配慮事項の選定及びその選定理由

計画段階配慮事項は、「環境影響評価指針」（平成11年愛知県告示第445号）の別表第1の参考項目を勘案して、選定することとした。

計画段階配慮事項の選定にあたっては、事業特性及び地域特性を踏まえ、都市計画配慮書対象事業（以下「対象事業」という。）に伴う環境影響を及ぼすおそれがある要因（以下「影響要因」という。）により、環境の構成要素（以下「環境要素」という。）について、影響が重大となるおそれがあると考えられるものとした。

なお、本事業については、資材置き場等であった場所に建設するものであり、大規模な地形改変を伴わない工事計画を予定していること、また、事業実施想定区域は、病院、学校、住宅等からの距離が離れていることなどから、「工事の実施」による影響が著しく大きいと想定されないため、影響要因の区分は、「土地又は工作物の存在」及び「土地又は工作物の供用」を選定した。

影響要因と環境要素の関連及び計画段階配慮事項の選定は表4.1-1に、計画段階配慮事項の選定理由は表4.1-2に示すとおりである。

表 4.1-1 計画段階配慮事項の選定

| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | 土地又は工作物の存在 | 土地又は工作物の供用 | | | | |
|---|-----------------------|------------------------|----------------|------------|--------|-------|-------------|-------------|
| | | | 地形改変並びに工作物等の存在 | ばい煙の排出 | 機械等の稼働 | 汚水の排出 | 廃棄物等の搬入及び搬出 | 施設からの悪臭の漏えい |
| 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 大気質 | 硫黄酸化物 | | ○ | | | | |
| | | 窒素酸化物 | | ○ | | | | |
| | | 浮遊粒子状物質 | | ○ | | | | |
| | | 粉じん等 | | | | | | |
| | | 有害物質等 | | ○ | | | | |
| | 騒音及び超低周波音 | 建設作業等騒音 | | | | | | |
| | | 施設からの騒音 | | | | | | |
| | | 道路交通騒音 | | | | | | |
| | | 低周波音 | | | | | | |
| | 振動 | 建設作業等振動 | | | | | | |
| | | 施設からの振動 | | | | | | |
| | | 道路交通振動 | | | | | | |
| | 悪臭 | 特定悪臭物質、臭気指数 | | | | | | |
| | 水質 | 水の汚れ(BOD等) | | | | | | |
| | | 水の濁り(浮遊物質量) | | | | | | |
| | | 富栄養化 | | | | | | |
| 有害物質等 | | | | | | | | |
| 地形及び地質 | 重要な地形及び地質 | | | | | | | |
| 地盤・土壌 | 土壌環境 | | | | | | | |
| 地下水の状況及び地下水質 | 地下水の状況 | | | | | | | |
| | 地下水質 | | | | | | | |
| 日照障害 | | | | | | | | |
| 生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 動物 | 重要な種及び注目すべき生息地 | | | | | | |
| | 植物 | 重要な種及び群落 | | | | | | |
| | 生態系 | 地域を特徴付ける生態系 | | | | | | |
| 人と自然との豊かな触れ合いの確保及び地域の歴史的文化的特性を生かした快適な環境の創造を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 景観 | 景観資源及び主要な眺望点並びに主要な眺望景観 | ○ | | | | | |
| | 人と自然との触れ合いの活動の場 | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | | | | | | |
| | 地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況 | | | | | | | |
| 環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素 | 廃棄物等 | 廃棄物 | | | | | | |
| | | 残土その他の副産物 | | | | | | |
| | 温室効果ガス等 | 温室効果ガス等 | | | | | | |

注1) ○：計画段階配慮事項として選定したものを示す。

2) 網掛けは、「環境影響評価指針」の別表第1の参考項目を示す。

表 4.1-2 計画段階配慮事項の選定理由

| 環境要素の区分 | | 影響要因の区分 | 計画段階配慮事項の選定理由 |
|---------|------------------------------------|----------------|--|
| 大気質 | 硫黄酸化物 窒素酸化物 浮遊粒子状物質 有害物質等 | ばい煙の排出 | ごみ焼却施設の稼働に伴い、煙突から排出される排ガス中に含まれる硫黄酸化物、窒素酸化物、浮遊粒子状物質及び有害物質等により、周辺環境への影響が重大となるおそれがあると考えられることから、計画段階配慮事項に選定する。 |
| 景 観 | 景観資源及び主要な眺望点並びに主要な眺望景観 | 地形改変並びに工作物等の存在 | 近隣には不特定多数の人が利用する施設が存在するため、計画施設の出現により、景観に変化が生じ、周辺への影響が重大となるおそれがあると考えられることから、計画段階配慮事項に選定する。 |

4.2 調査、予測及び評価の手法の選定並びにその選定理由

調査、予測及び評価の手法は、「環境影響評価指針」第7～第10及び別表第2の参考手法を勘案し、事業特性及び地域特性を踏まえ選定した。

調査、予測及び評価の手法は、表4.2-1及び表4.2-2に示すとおりである。

表 4.2-1 調査、予測及び評価の手法（大気質）

| 環境要素 | 影響要因 | 調査、予測及び評価の手法 | |
|------------------------------------|------------------------|--------------|--|
| 硫黄酸化物 窒素酸化物 浮遊粒子状物質 有害物質等 | [土地又は工作物の供用] ばい煙の排出 | 調査すべき情報 | (1)大気質の状況 二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、有害物質等（ダイオキシン類） (2)気象の状況 風向、風速、大気安定度 |
| | | 調査の基本的な手法 | (1)大気質の状況 調査地域における大気汚染測定局等の調査結果の収集・整理による。 (2)気象の状況 事業実施想定区域周辺の大気汚染測定局及び名古屋地方気象台の測定結果の収集・整理による。 |
| | | 調査地域 | 事業実施想定区域から半径約 3km の範囲とする。 |
| | | 調査地点 | (1)大気質の状況 以下に示す大気汚染測定局等とする。 ・武豊町役場（愛知県管理） ・武豊町役場庁舎屋上（武豊町管理） ・富貴小学校（武豊町管理） ・北山配水池（武豊町管理） (2)気象の状況 ・富貴小学校（武豊町管理）[風向、風速] ・名古屋地方気象台 [日射量、雲量] |
| | | 調査期間 | (1)大気質の状況 過去 5 年間 (2)気象の状況 平成 24 年度 |
| | | 予測の基本的な手法 | 大気拡散計算式（ブルーム式及びパフ式）により、長期予測を行い、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及びダイオキシン類の濃度（年平均値）を算出する。 |
| | | 予測地域 | 事業実施想定区域から半径 3km の範囲とする。 |
| | | 予測対象時期 | 計画施設の稼働が定常の状態となる時期とする。 |
| | | 評価の手法 | 予測結果に基づき、案ごとの環境影響の程度を整理し、比較を行う。 予測結果と環境基準との間に整合が図られているかどうかを検討する。 |

表 4.2-2 調査、予測及び評価の手法（景観）

| 環境要素 | 影響要因 | 調査、予測及び評価の手法 | |
|------------------------|--------------------------------|--------------|--|
| 景観資源及び主要な眺望点並びに主要な眺望景観 | [土地又は工作物の存在] 地形改変並びに工作物等の存在 | 調査すべき情報 | <ul style="list-style-type: none"> ・景観資源の状況 ・主要な眺望点等の状況 ・眺望景観の状況 |
| | | 調査の基本的な手法 | <p><文献その他の資料調査> 景観資源の状況並びに主要な眺望点等の状況について、既存資料による情報の収集・整理による。</p> <p><現地調査> 現地踏査により、眺望点の状況について把握するとともに、写真撮影により、事業実施想定区域方面の眺望景観の状況を把握する。</p> |
| | | 調査地域 | 事業実施想定区域から半径約 3km の範囲とする。 |
| | | 調査地点 | <p><現地調査> 事業実施想定区域近隣の不特定多数の人が利用すると考えられる（仮称）地域交流センター（建設中）とする。</p> |
| | | 調査期間 | <p><現地調査> 任意の時期 1 回とする。</p> |
| | | 予測の基本的な手法 | 予測地点からの眺望景観の変化について、フォトモンタージュにより予測する方法による。 |
| | | 予測地点 | 調査地点と同じ（仮称）地域交流センター（建設中）とする。 |
| | | 予測対象時期 | 計画施設の設置が完了する時期とする。 |
| | | 評価の手法 | 予測結果に基づき、案ごとの環境影響の程度を整理し、比較を行う。 |